

【評価実施概要】

事業所番号	1090500024
法人名	医療法人社団田口会
事業所名	グループホーム コアラII
所在地	群馬県太田市飯塚町 63-1 (電話) 0276-30-3011

評価機関名	サービス評価センター はあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町 1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成 22 年 3 月 27 日

【情報提供票より】(22年3月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 9人, 非常勤 1人, 常勤換算	9.7 人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	1階建ての,	1階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	持込電気製品1日50円その他実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	700 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	7 名	男性	2 名	女性	5 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	79 歳	最高	91 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 慶仁会 城山病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者・職員は理念で謳われている「・・・利用者さんの楽しい生活が送れる環境作り」を実践し、利用者が自由に意見を言える施設作りに努力している。利用者一人ひとりの持っている力を引き出すために『待つ事』を大切にしている。その結果の出来ない部分の支援を行っている。そのために、管理者・職員はチームワークを大事に支援にあたっている。また、地域住民と連携し、地域にうち解けることを大切に、地域との関係性を全職員が意識して、地域との交流・お付き合いに参加努力している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域密着サービスとしての理念については見直し、地域住民との連携や地域に打ち解けることを盛り込んだホーム独自の理念を作り上げた。現状に即した介護計画の見直しについては、月に1回のモニタリングを基に3ヶ月に1回の見直しを行っている。重度化や終末期に向けた方針の共有では基本的な方針の文書化までには至っていない。災害対策では年に2回の訓練を行っている。栄養摂取や水分確保の支援では水分摂取量の目安を1000ccとし記録をつけ改善されている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員に自己評価項目を見せて記入してもらい、管理者がまとめ作成した。</p>
	<p>重点項目②</p> <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は定期的開催されており、ホームの現況や行事・事故報告・外部評価結果を報告している。メンバーや家族全員に開催通知を出している。家族からは重度化した場合の退去に関してやりハビリ・買い物等の意見・要望が出ている。民生委員から地域の活動サークルの募集情報を教えてもらい運営に繁栄させている。</p>
重点項目③	<p>重点項目③</p> <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>契約書に苦情受付の窓口を明記すると共に、意見箱を設置している。家族等の面会時に出来るだけ声をかけてコミュニケーションをとっている。体調の変化を頻繁にお伝えする家族には連絡ノートを作り意見交換をしている。外の下水の臭いの対策等で意見が出ている。</p>
重点項目④	<p>重点項目④</p> <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>管理者・職員が意識して地域住民に声をかけ交流に努力している。ご近所に好意にしてくださいの方が出来たり、野菜をいただいたり、草むしりに協力したりと「近所付き合い」が広がりつつある。ホーム便りを市の行政センターに置いてもらい、ホームから情報発信したり、ボランティアサークルの来所等で自治会の力も借りながら関係を築いている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を見直し、地域住民との関係性を意識した独自の理念を管理者・職員皆で作りに上げた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月に1度の会議を利用して、利用者の目標設定を行う際に理念を基に検討し職員間の共有を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	クリスマス会、敬老会に地域から声をかけていただいている。地域のふれあいサロンやいきいきサロンに参加をしている。ボランティアの来訪(合唱・オカリナ演奏会・童謡)や中学生の職場体験を受け入れたり、運動会に参加したり、回覧板を回してもらおう等の地域とお付き合いを意識して行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果を職員に配布し、会議にて話し合い、出来ることから取り組んでいる。今回の自己評価は各人に記入してもらい、管理者がまとめ作成した。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的に行われている。ホームからは利用者の日頃の様子・現況・行事報告がされている。メンバーや家族全員に開催通知を出し、多くの参加を呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	「コアラⅡ新聞」を市の行政センターに届け、施設の空情報・現況等を報告している。ケアマネジャーが分からないこと等で連携を図る機会を作っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の暮らしぶりや健康状態を報告している。家族向けの「コアラⅡ新聞」には日ごろの生活の様子をお伝えしている。	○	「コアラⅡ新聞」発行等で家族への報告を大事にしているが、より充実した紙面作りを工夫して、利用者のたくさんの情報を家族に知らせてほしい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受診は基本にご家族が同行するので医師に日ごろの状況を報告し易いように体調等を記入したノートを活用している。医療管理の必要な利用者には体調の変化を記入した連絡ノートで家族と情報交換をしている。家族等の面会時にはコミュニケーションの機会を持ち、意向や要望等言いやすい雰囲気を作っている。家族からはホーム内の臭いについて意見があり、外の下水臭であることを突き止め改善に取り組んだ。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は「コアラⅡ新聞」で報告している。新入職員は先輩職員が日勤1ヶ月、その後遅番を1ヶ月、夜勤を2回同行指導をし、3ヶ月で一人立ち出来るようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は研修希望を聞いてもらえる。認知症・感染症・基礎研修・実践者研修・防火管理者資格取得講習会・ケアプラン作成のためのセンター方式等に参加をしている。研修後は会議で報告し、レポートを提出して共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡協議会に参加し、レベルアップ研修やAED講習・普通救急救命講習に参加している。他事業者とおむつの種類や取り替え方の情報交換等も行っている。介護支援専門員研修会の場でケアマネジャーとの交流もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	在宅からの希望の場合は、まず家族に訪問してもらい、その後本人の訪問があり、納得のうえ利用に繋がっている。希望があれば1～2泊の体験入居も可能である。入居後もしくは、家族に頻りに来所してもらったり、密に電話連絡をしている。病院や施設からの入居希望の場合は管理者とケアマネジャーが伺い、ホームの雰囲気に合うようならば利用に繋がっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であることを職員が意識し、人付き合いや地域の慣わし・昔の話や歴史・畑仕事を教えてもらったり、励まされたりしながら共に過ごし、支えあう関係を築いている。利用者同士で話をしていても、話の輪に入れてくれたり、お互いに支えあい生活している。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の言動・表情・行動パターンの見守りや日常的な会話から、職員は利用者の希望や意向を察知し、内容を会議で話し合い共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	2人で3名を担当する担当制を設けている。職員の意見や家族からは面談や電話で要望を聞き、職員会議で確認し、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には1ヶ月に1回のモニタリングと3ヶ月に1回の見直しを行っているが、状況の変化に応じて随時現状に即した新たな介護計画を作成している。担当者が家族から確認印をいただいている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	理美容院等の送迎、かかりつけ医への通院、日常的な買い物、家族の代わりに外食に行ったりという柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望するかかりつけ医を優先受診する支援をしている。家族が付き添った時は報告を受け、職員が付き添った際は家族に報告している。緊急時の連絡網を作成している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	方針について必要性を認識しており、作成段階である。	○	方針の作成段階であるので、早急に事業所が対応し得る最大の支援方法を踏まえて、重度化や終末期に向けた対応方針を定め、それらを明文化して欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導時にはそつと声を掛けることや会議ではイヤホンを用いる配慮をしている。職員とは秘密保持に関する契約書を取り交わし、書類は事務所内で適切に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな食事時間等の決まりはあるが、利用者個々のペースに合わせてながら、洗い物、食器拭き・テーブル拭き等を手伝ってもらっている。朝晩もテレビを見たり一人ひとりのペースに合わせた自由な生活が送れるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞き職員が献立を作成している。外食やおやつレクレーション・誕生会を楽しんでいる。料理の下ごしらえを手伝ってもらいながら利用者と職員と一緒に食事を楽しみ、後片付けを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、月・水・金という決まりはあるが、希望があれば毎日入浴できる体制はある。足湯、清拭、着替えを取り入れ、最低でも週に2回は入ってもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お掃除・洗濯物干しやたたみ・草むしり・食事の下ごしらえをお願いしている。お化粧や俳句作りを楽しんだり、お花見・温泉・カラオケ・ふれあいサロンへの外出・レクレーション・ボランティア(オカリナ・合唱・地域行事への参加)・お茶とおやつ持参で公園に行ったりしながら楽しみごとや気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外気浴・散歩等の日常的な外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないようにしている。また、地域住民の理解を求め協力していただける関係を築く努力をして利用者の自由な生活を支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力により昼想定のに1回の立会い訓練(避難・通報・消火訓練)と利用者参加の自主(避難誘導)訓練を1回づつ行っている。近隣の住民や隣接している飲食店の協力も取り付けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嗜好や体調等を考慮しながら、栄養のバランスのとれた食事を提供している。食事、水分の摂取量を記録し水分は摂取量を1000ccを目安としている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は天井が高く、明るい日が差し込み、空気除菌・清浄機があり、リビングから見渡せる庭には大根・菜の花等が植えられ、突き当りには電飾が飾られ夜でもライトアップで目を楽しませてくれる工夫がある。リビングにはテーブル、椅子、テレビが置かれ、利用者の作品や行事写真等が飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた洋服ダンス・いす・テレビが置かれ、家族写真が飾られており、利用者の生活感が実感できる環境づくりがされている。		